

被災地派遣レポート<第3回>

財務局建築保全部庁舎整備課

三浦 直登さん

○ 岩手県陸前高田市へ

平成23年4月7日8時30分に都庁に集合し、第1陣ということで、寝袋やコンロなどの生活物資や現地での作業道具を積み込み、出発しました。

派遣されたのは、各局の職員30名で、5名を1班とした6班体制という構成でした。

高速道路は、福島・宮城あたりになると路面の状況がところどころ悪く、振動がある箇所が多く、高速から見える家屋の一部は、瓦が落ちるなどしていました。

岩手県に入り、高速を降りると、家屋は、外観からの被害はほとんど見られず、通常の田舎の風景に、畑仕事など普通の暮らしをしている人が多く見受けられました。

そして、水沢で、レンタカーを借り、バス2台、乗用車6台で隊列を組んで、宿泊先である岩手県大船渡地区合同庁舎に向かいました。



〈バスとレンタカーで現地へ〉

到着後、宿泊先である会議室に荷物を運び込み、班長、岩手県、東京都の岩手県事務所の方々とでミーティング、全体挨拶を行いました。

その後は、先遣隊として30名で協力し合い、宿泊先の設営を行いました。中央に、共用スペースとして班ごとに机と椅子を配置し、その周りにプライベートスペースとして、寝袋と個人の荷物を置くスペース作り、入口付近には、共用で使用する物資、作業道具を置きました。



〈岩手県大船渡地区合同庁舎〉

女性も2名参加していたので、畳を敷き、ダンボールで囲うなど、出来る限りの配慮はしました。

第1陣は、派遣される方々の生活環境を整え、現地活動に集中し、宿舎に戻ったらリラックスできる雰囲気が出るよう、宿泊する会議室の片付けや整理、都庁に戻ってそのまま捨てられるよう分別したゴミ箱の作成など、あるもので出来ることを各班で作成するなど、基盤づくりを心がけました。



〈宿泊先の会議室〉

第2陣では、引き続き、庁舎利用や食事などのマニュアル、生活をする上でのルール、作業をする上での注意事項などを作り、活動を軌道に乗せるための準備を心がけました。

○ 第1陣 初日の夜に震度6弱に遭遇

第1陣は、消灯から約1時間後、縦揺れの大きな地震がありました。揺れがある程度落ち着いたら、靴を履き、外に出てもいい格好、懐中電灯と携帯を持ち、中央の共有スペースで待機しました。

ラジオや携帯で情報を入手しつつ、携帯は地震後すぐにはメールが比較的通じやすかったので、連絡がとれる人は、職場や家族に連絡を入れることにしました。

津波警報も出ましたが、宿舎は、高台で耐震補強もしており、避難場所として住民の方々も非難するなど、安全だと感じました。

その後は、停電に断水、通信不能という状態が次の日の夜まで続きました。

ただ、携帯は、ドコモ、AU、ソフトバンクのどれかは使用できていました。

水は、停電すると庁舎屋上のタンクに水を送れないので断水しているため、給水してきて、一緒に手伝って、トイレの水を運び、それからトイレは、手動で水を入れて使えるようになりました。トイレだけは本当に困ります。

翌日の19時ごろ電気がついたときは、「お〜。」という声と、拍手に沸いた。電気のありがたさを実感した瞬間でした。



〈 停電時の待機 〉

○ 小友地区・ふるさとセンターの復旧作業

前日に地震があったため、活動初日の午前中は、数名で現地の安全確認をしてからの作業のため、午後から、小友地区のふるさとセンターの復旧に入りました。

この建物は少し高台にあったため、津波により泥水が入ってはいたが、復旧すれば今後も使用できる状態であったが、下の田んぼだった箇



〈 小友地区・ふるさとセンターの片付け 〉

所はあたり一面、がれきの山。想像を絶する光景に言葉を失いました。

海沿いの家の破片や船が、たんぼに散らばっている光景は、テレビで自分の家がどこにあるかわからないという津波被害者が言っていたが、そのとおりだと感じました。

作業は、半日ということもあり、6班がそれぞれの持ち場を片付け、清掃を行い、進捗により、配置を換えるなど効率よく進めていきました。



〈 小友地区・ふるさとセンターの清掃 〉

作業を終え、地区の会長から「どう復旧していいかわからなかったが、先が見えてきたように思えます」という言葉を頂きました。

地元数人では途方にくれる作業も、30名で入れば、半日で先が見えるまで復旧する。

これが、マンパワーであり、今回の派遣で東京都の貢献できる1つだと感じました。

○ 本部・給食センターでの物資の搬入・搬出作業

作業2日目は、初日と異なり2班ずつ、3グループに分かれて活動しました。

1グループは、本部である給食センターでの物資の搬入・搬出作業。2グループは、小友小学校の体育館の復旧作業。3グループは、午前中、長部小学校で、交通整理と学用品の配布。午後からは2グループに合流。

現地では、班ごとに車で移動できるため、細かく配置でき、機動的に動けるため現地の要望にきめ細かく対応できるように感じました。

私は、6時50分に宿舎を出て、7時30分からの本部・給食センターでの物資の搬入・搬出作業を行いました。

搬入・搬出は、各地からの支援物資を積んだトラックの到着が午前中に多いため、他のグループより早く作業を開始します。

ここで一緒に作業した市の職員の方が、地震が起き、津波が襲った時のことを話してくれました。

この方は、市役所で仕事をしていて、地震が起き、屋上に住民とともに約130名が避難したそうです。

第1波は小さく、大きな第2波と第3波が異なる方向から迫ってきて、それを見て、もうだめだと思ったそうです。

津波が次々に来ると、屋根で助けを求める子供や走っている車が飲み込まれていき、屋上の自分たちの足元までも水が来ている中で、見ているだけしかできなかったと言っていました。

次の日、病院や他の建物の屋上に逃げている方々をヘリで救助し、最後に市役所の職員を救助したそうです。その方は、それから家も失っているため、給食センターで寝泊りしながら、ずっと救援物資の搬入・搬出作業をしています。

また、その方は3月の定年も延期され、毎日休むことなく、避難所に物資を送り続けています。

東京都はその後も2班、ここで作業を行っています。

第2陣では、海上自衛隊からの水を335箱、自衛隊の方と一緒にヘリからトラックに運び、さらに断水している小友小学校に、構内に運びこんだりもしました。

自衛隊、学校の先生や生徒と一緒にやる作業は、本当に一体感があり、また貢献を実感できる時でもありました。



〈 本部・給食センター 〉



〈 海上自衛隊ヘリからの搬送 〉

○ 小友・高田小学校体育館の復旧作業

第1陣の2日目と第2陣の1日目は、小友小学校の体育館、第2陣の2日目以降は高田小学校の体育館の復旧作業を行いました。

津波が来た場所での作業なので、まず、私たちは、作業前に避難場所とトイレなどの確認を行い作業につきます。

体育館は、1ヶ月が経ち、床は泥がこびりついているため、泥をはがし、掃いて清掃をしていきます。

地下倉庫は、まず、倉庫にあった机や椅子、体育用具などを外に出し、津波で入った土砂や家の部材、金属などを出し、清掃します。そして、外に出したものを掃除し、みがき戻していきます。

小友小学校体育館では、前日の地震で5枚のガラスが割れており、その撤去や周辺のがれきなどの片付けも行います。

断水しているため、給水車からの水や湧き水などを清掃では使いました。第3陣では、軽トラックを借りて、水も調達に行ったそうです。宿泊先は水の心配はありませんが、現地の作業では、水が貴重でした。

ガラスやがれきの片付け、土砂などの撤去、清掃などを着実にこなし、先生が見に来たときには、「こんなにきれいになったの。」と驚きとともに、とても感謝してくれました。

私たちが直接見られなくても、東京都が復旧させた小友・高田小学校の体育館で、入学式や始業式、子供たちが遊んでくれる日を、楽しみに思いました。



〈 高田小学校体育館の作業中 〉



〈 高田小学校体育館の作業後 〉

○ 第1陣、第2陣での活動を通して

今回の派遣で特に、津波の怖さには驚愕しました。

日本の建物は、地震には本当に強いと感じる一方。津波により、生死の分かれ目がはっきりしていました。つまり、道を挟んで、右はちょっと高くなっていて、普通に暮らしている。左は、建物の痕跡すらないがれきの山。時には、住宅の4階5階で生死を分けたと思える光景。

その境が、生死の分かれ目であり、財産も生命も思い出もすべて奪っていきます。この運命の差って何だろうと、考えさせられまし



〈 津波被害を受けた住宅 〉

た。

答えなんてありません。

私は、本部・給食センターでの作業を中心に行っていましたが、震災から1ヶ月が過ぎ、学生ボランティアも減り、東京都が10名必ず来てくれて、他への物資の移動なども、車ですぐに行ってくれるので、頼りになるし、本当に感謝していると言って頂きました。

それぞれの活動の場で、感謝され、一緒に活動した職員は、みな充実感と達成感で帰ってこられたと思います。

陸前高田市の海岸は、堤防はなく、あたり一面がれきの山。最大84センチの地盤沈下に、下水処理施設は海岸にあり壊滅のため、場所によっては、仮設トイレを各家庭に配布し、水源が津波で襲われているため、水は給水車。

施設ができるまで、今と必要なことは変わるかもしれませんが、まだまだ、支援が必要だと感じました。

戻った私たちは、この現状をマスコミからの情報ではなく、自分で見て聞いたことをもとに、多くの人に伝えていき、岩手県陸前高田市の現状を多くの人に伝え、少しでも支援の輪が広がってくれればと思っています。



〈 第2陣の集合写真 〉